

# NEWS WE ARE

—わたしたちは いま—

特  
集

矯正におけるMVV

(ミツシヨン・ビジヨン・バリユ)

職員インタビュー

(宮川医療少年院・金沢少年鑑別所)

発達障害支援チーム発足

施設紹介

湖南学院・瀬戸少年院・津少年鑑別所

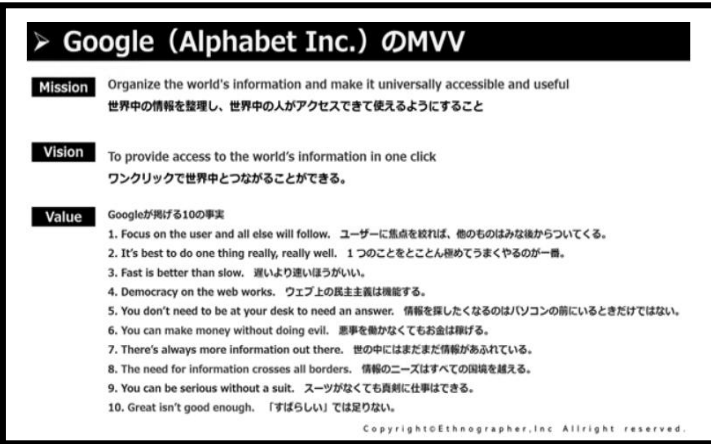
Vol.  
152

# 矯正におけるMVV(ミッション・ビジョン・バリュー)

## MVVとは

近年、特に民間企業では、ミッション・ビジョン・バリュー(MVV)などの形で、社会における組織の存在意義や使命、目指すべき方向性、組織のメンバーの行動の拠り所などを再定義しようとする動きが見られます。

例えば、Googleでは左図のとおりMVVを策定し公表されています。



(株) Googleホームページから引用

行政機関でも、人事院や内閣人事局といった国家公務員人事制度を所管する機関でMVVが策定され、最近では、財務省や経済産業省などの省庁においても、MVVが策定されており、その動きは広がりつつあります。

ところで、行政機関の目的は、法律で定められているところ、なぜMVVを策定する必要があるのでしょうか。

実際、矯正官署の目的や所掌事務は法令で規定されており、平成25年には「矯正職員の使命」が制定され、矯正の現場に広く浸透しています。しかし、これらは矯正官署の機能を説明するものであって、矯正行政が社会の中で目指す将来像、実現したい社会の姿までは示されていませんでした。そのような中、令和6年6月か

ら来るべき拘禁刑時代の到来を見据えて、矯正管区、矯正施設及び矯正研修所に所属する125名の職員が中心となり、職場の上司・部下・同僚、犯罪被害者、元受刑者及び元少年院在院者等へのインタビューの実施やワークショップ等を通じて、延べ1500名にも及ぶ多数の声を収集し、これらを基に、

矯正行政が社会的な役割を果たしていこうと取り組む際の基礎となる、「**矯正行政のミッション・ビジョン・バリュー**」**社会の皆様への約束とお願ひ**」が策定されました。併せて、全国の施設においてもそれぞれの実情に応じた取り組みを進める必要性が高まり、意見交換会やワークショップ等を通じて、各矯正官署でも検討を重ね、MVVが策定されるに至りました。

## 矯正におけるMVV

ここからは、矯正行政におけるMVVについて、具体的に紹介します。

### ◆ 私たちの使命 Mission

**更生を信じる力で  
もっと安全で豊かな社会を**

私たちは、どんなときも犯罪や非行をした人と向き合ってきました。

安全な環境を保つこと。自らの罪と向き合い、真摯な反省の下、責任ある社会の一員として再び生きようとする事。

それが、新たな被害を防ぎ、安全で豊かな社会につながると信じて。

過去や未来と向き合い、その人の心を動かすこと。

そして、共に生きようとする社会を創ること。

**「更生を信じる力で、もっと安全で豊かな社会を」**

それが、私たちの使命です。

# 矯正におけるMVV(ミッション・ビジョン・バリュー)

◆ 20年後に目指す姿  
Vision  
罪と向き合い  
社会とつながる場所

私たちは、犯罪や非行をした人が人や社会とのつながりの中で更生し共生できる社会を創ります。そのため安全について考え、実践と改善を重ねます。

社会のあらゆる人と共に更生について考え、それぞれの価値観と世界観を共有しながら、協働します。そのためにも、私たち自身の健康や幸福について考え、環境を整えていきます。

**私たちの使命/Mission**

更生を信じる力で、  
もっと安全で豊かな社会を

私たちは、どんなときも犯罪や非行をした人と向き合ってきました。安全な環境を保つこと。自らの罪と向き合い、真摯な反省の下、責任ある社会の一員として再び生きようとする。それが、新たな被害を防ぎ、安全で豊かな社会につながると信じて。過去や未来と向き合い、その人の心を動かすこと。そして、共に生きようとする社会を創ること。「更生を信じる力で、もっと安全で豊かな社会を」それが、私たちの使命です。

◆ 私たちの行動規範  
Value

24時間365日、私たちは見守り続ける。  
日中の工場や教室で。夜の廊下で。

一人ひとりの観察と、一つ一つの確認を繰り返し、声をかけていく。  
一人ひとりが、それぞれの持ち場で自らの責務と真摯に向き合う。目の前にいるその人が、自らに科された一日一日を大切に重ねて

**私たちが目指す20年後の姿/Vision**

罪と向き合い、社会とつながる場所

私たちは、犯罪や非行をした人が、人や社会とのつながりの中で更生し、共生できる社会を創ります。そのため安全について考え、実践と改善を重ねます。社会のあらゆる人と共に更生について考え、それぞれの価値観と世界観を共有しながら、協働します。そのためにも、私たち自身の健康や幸福について考え、環境を整えていきます。

いくように。  
安全で豊かな社会に向けて。  
1 犯罪被害者等の声に耳を傾け、犯罪や非行をした人の過去にも目を向けて、真摯な反省と更生に向けた思いや行動が生まれるよう、対話を重ねます。

2 安全を守り、回復と更生を支援する対人援助職として、公平・公正に振る舞い、自らに課された一日一日を大切に重ねていくように。安全で豊かな社会に向けて。

このために常に学び、磨く姿勢を持ち、社会とつながりながら、

**私たちの行動規範/Value**

24時間365日、私たちは見守り続ける。日中の工場や教室で。夜の廊下で。一人ひとりの観察と、一つ一つの確認を繰り返し、声をかけていく。一人ひとりが、それぞれの持ち場で自らの責務と真摯に向き合う。目の前にいるその人が、自らに科された一日一日を大切に重ねていくように。安全で豊かな社会に向けて。

- 1 犯罪被害者等の声に耳を傾け、犯罪や非行をした人の過去にも目を向けて、真摯な反省と更生に向けた思いや行動が生まれるよう、対話を重ねます。
- 2 安全を守り、回復と更生を支援する対人援助職として、公平・公正に振る舞い、自らの責任を果たしていきます。このために常に学び、磨く姿勢を持ち、社会とつながりながら、創意工夫を重ねます。失敗を教訓と捉え、困難な課題にも挑戦していきます。
- 3 多様な価値観を受け入れ、それぞれの強みが発揮されるよう助け合い、共に成長し、共に幸福であらうとします。

3 多様な価値観を受け入れ、それぞれの強みが発揮されるよう助け合い、共に成長し、共に幸福であらうとします。

## MVVの今後

本MVVは、矯正行政の取組を進めるための指針であり、矯正実務に携わるすべての職員が共有し、日々の業務の中で体現していくものです。

今後も、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向け、着実に取り組みを進めていきます。

また、矯正のMVVについて、もっと詳しく知りたい方は、画像にあるQRコードから専用サイトにアクセスすることが出来ますので、ぜひご覧ください。

check







# 歴史・文化の伝承を通じた健全育成の取組

## — 社会の皆様への約束と我々への挑戦 —



### 桑名首席専門官

部下職員の潜在能力を引き出すとともに、地域社会との連携に向けて日々奮闘している。

法務教官として矯正教育等を実践してきたキャリアを活かし、地域援助※3にも尽力している。

※3 犯罪・非行の予防と再犯防止を目的に、地域住民、学校、関係機関からの相談に応じ、専門的知見に基づき助言や心理的援助を行う包括的な支援活動のこと

◆貴所のMVVについて教えてください。

当所のMVVについては、**社会の皆様への約束と、我々への挑戦**というような、コンセプトで制定しております。

まず、ミッションにつきましては、誰もが自分らしく生きられる地域社会の実現に向けて取り組んでいくところ、ミッションになります。

ビジョンについては、誰しもが地域とつながり、未来への希望を育む場所を目指すこと、対話や協力を重ねて心理的安全性を確保していくとともに、未来への希望を育む場所としての、少年鑑別所を目指していくことがビジョンになります。

最後にバリューについては、尊重、共同、挑戦、安心、この4点を掲げております。

日々の業務で大切にしている姿勢、基本的なことを改めて実践するということで、職員が働きやすく、在所者だけでなく、支援を受ける人々すべてが安心できる環境を築いていくことが、バリューになります。

◆なぜ、MVVの策定にあたり、歴史、文化の伝承を取り上げたのですか？

金沢という地域柄、今でも歴史文化が非常に息づいており、それが施設運営にもよく反映されています。

我々からすると、今まで当たり前のようなところがあったのですが、改めてスポットを当ててみると、他では見ない取り組みであることを、再発見することができました。また、施設の運営にも非常に良い影響を与えていることが分かったので、MVV策定における一つの軸として取り上げました。

◆貴所が取り組んでいることを具体的に教えてください。

例えば、金沢に残っている氷室行事に合わせて、氷室饅頭を少年に給与するといった、伝統行事を所内で再現することや、伝統文化に関する講話を対話形式のような形で授業すること、少年が使用する日記帳の冊子に、伝統文化に関する記事を掲載するといった取組をしています。

◆取組に対して在所者の反応は、どのようなものでしたか？

切籠ってという灯籠のようなものがあるのですが、少年が自分で作った切籠の中にランタンを入れて、薄暗いところで光っているのを見ると、「きれいだ。」、

「見れてよかった。」と言って反応してくれますし、やはり聞くだけで終わりではなくて、実際に体験できるというのが、良かったと思っています。

◆今後の展望について教えてください。

現在の取組を継続していくことに加えて、伝統文化や歴史といった地域との共通した物が特徴として挙げられますが、他にもスポーツなんかも同様だと思います。また、当所は地域に根付いているソフトウェア的なものを、色々な形でつなげていくハードウェアとしての少年鑑別所という位置づけをMVVにしております。

そのため、この軸をしっかりと見据えたうえで、きちっと実践していくところ、地域とのつながりを築いていくためのソフトウェアを、色々な形で発見、あるいは取り入れていくことを続けていきたいと考えています。

## 地域とのつながりを築いていくハードウェアとしての少年鑑別所へ

# 湖南学院

## ボッチャ・コンサート


以前、パラリンピック元日本代表選手を招いた講話を実施した際に、ボッチャの体験会が行われ、体への負担の小ささや、ルールのがかりやすさ、何よりチーム内でのコミュニケーションを図ることができるというメリットが認められたことから、保護者参加型プログラムに適しているとして採用されることになりました。在院者とその家族がチームを組み、プレーに取り組むなかで、普段ぎこちない関係の親子であっても、自然にお互いの緊張がほぐれ、積極的にコミュニケーションを図る場面が多く見られています。

実施後は、参加した保護者から、「我が子と一緒に活動ができて本当に嬉しかった」、「こんなに話せたのは何年振りだろう」といった感想が寄せられています。

また、当院では、毎年、石川県立音楽堂楽友会の協力により、金沢市を拠点とする管弦楽団であるオーケストラ・アンサンブル金沢に所属する演奏家を主に招き、在院者に向けたコンサートを開催しています。

コンサートでは、クラシックの名曲を中心としつつ、誰もが聞いたことのある曲や、令和のアーティストの楽曲がプログラムに組み込まれることもあり、在院者は、一流のプロ演奏家による美しい音色と高い演奏技術に魅了されています。

質疑応答では、努力や継続の大切さ、プロとして生きる厳しさを学んでいます。



ルールも簡単、体に負担も小さく保護者も安心して取り組みます。



写真：オーケストラ・アンサンブル金沢



版築によるブロック製作



完成したブロック

瀬戸少年院には、外国に繋がりを持つ少年が1、2割ほど在院しています。そのような背景から、「多文化共生プログラム」という講座を開講し、国籍に関係なく、自分と異なる他者を理解し、共に生きることにについて、少年たちへの指導を続けてきました。

講座は3か月に渡って行います。外国に繋がりを持つ少年だけでなく、日本の少年も参加することで、自国の文化について改めて考える機会としています。

令和7年、愛知県の市町村を会場として3年おきに実施される芸術の祭典、国際芸術祭「あいち2025」が、瀬戸市で開催されました。本芸術祭では、国内外で活躍する現代美術のアーティストを招へいし、会場となる街に作品が展示され、多くの方が鑑賞します。創立以来、92年に渡って瀬戸市で教育を続けてきた当院も、ご縁があってこの芸術祭に参加することとなりました。

今回、瀬戸少年院には、ガーナのアーティストが来所し、多文化共生プログラムを受講する少年たちとともに、「版築」と呼ばれる伝統的な建築技術により、土を押し固めてブロックを製作しました。参加した少年たちは、海外の文化に触れ、スタッフと共に手を動かし、最後には美しいブロックが完成しました。作品は、少年たちから鑑賞者へのメッセージとともに、愛知県陶磁美術館に展示され、多くの来場者に鑑賞されました。

## 瀬戸少年院

### 多文化共生プログラムと、国際芸術祭「あいち2025」への参加

# 津少年鑑別所

## 「地域による包摂」を目指して

当所は地域社会の犯罪や非行の防止活動（地域援助）をして参りましたが、本年度は特に再犯防止推進計画の重点課題の一つである「**地域による包摂の推進**」を要に支援を展開したので紹介いたします。

まず、矯正施設出所者・出院者の再犯防止・社会復帰支援に積極的に携わってきました。例えば、少年院出院前に処遇効果の検証等のための面接を実施後、ケース会議に出席し、社会復帰後の再犯防止や生活安定のための支援の在り方について支援者同士で調整を図ったり、御本人やその保護者との話し合いの場に参加して、今後の支援を検討をしました。

また、地域援助の効果的な実施を目的として、毎年、地域援助推進協議会を開催しています。

今年度は、既存の支援ネットワークの機能強化を目的として、三重県地域生活定着支援センター、三重県内の矯正施設、保護観察所と有機的な連携の在り方について、協議し、連携強化に向けた認識を共有しました。

三重県内の行政機関との連携も深めて参りました。令和5年から開始した伊勢市における出張相談を今年度も実施したほか、県下児童相談所を管轄する児童相談支援課と連携し、同課が実施する市町の母子保健福祉担当者向け研修に講師を派遣したほか、今後はアドバイザーとしても協力する方針です。

また、三重県内では第三者専門家による学校問題ADR（裁判外紛争解決）の取組が進んでおり、今後はこの取組にも協力するよう調整を進めています。

このように当所は地域の関係機関と連携し、非行や犯罪等の防止活動を進めております。相談等の御依頼をお待ちしております。



地域援助推進協議会の配布資料等

## 特集

### 中部矯正管区

#### 発達障害支援チーム発足

近年、発達上の課題を持つ在院者が増加しています。犯罪白書によると、発達障害等と診断された在院者は、平成15年は155人（27.7%）だったのが、平成30年には322人（15.3%）、令和6年には371人（20.3%）と大きく増えています。

また、発達上の課題がある在院者には、指示の理解に時間が掛かったり、衝動性のコントロールの難しさなどを要因とした対人関係のつまづき体験があったりと、発達特性による「生きづらさ」を背景に、学校不応や孤立、成功体験の少なさ、自尊心の低さにつながっている者も少なくありません。

少年院では、こうした特性に合わせて「**支援教育課程**」を設け、他の教育課程に比して分かりやすい教材の使用、特性に応じた段階的な指導など、個別の事情に応じ

た細やかな処遇を展開しています。

一方で、発達障害のある在院者の社会復帰に向けては、自身の特性を理解することは、再犯防止のみならず、自立した生活の基盤を構築する上でも大きな意味があります。また、施設内での教育活動に加え、在院中から帰住先地域等の協力者と在院者が関係構築を図っていくことは、地域へのソフトランディングを図るうえで重要です。

このような発達上の課題を有する在院者に対する**処遇の充実化**に向け、本年度、**関東、中部及び近畿**矯正管区に矯正管区発達障害支援チーム（以下「支援チーム」という。）が設置されました。

中部矯正管区支援チームとしては、管内少年施設からの依頼に基づく支援の実施のほか、意見交換会等の企画を通じて、処遇の充実化に向けた取組を進めて参ります。



在所者が作成した切籠に明りを灯した様子  
(金沢少年鑑別所)

## 表紙について

「これからに向けた夜明け」

矯正のMVVのイメージカラー

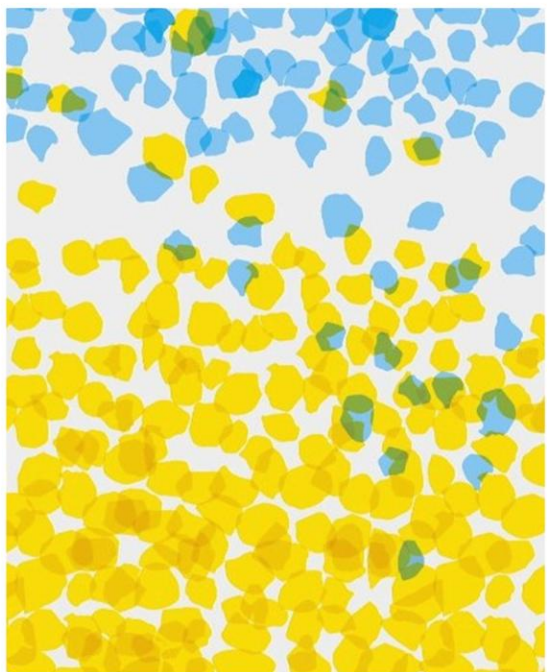
青：夜明け前の空/矯正

黄：朝日/社会

緑：矯正と社会のつながり

点：私たち一人一人

をイメージしており、少しずつ  
滲み出して、重なりを増やして  
いこうとする様子を意味します。



News We Are ーわたしたちはいまー 152号

発行日 令和8年3月吉日

編集・発行責任者 中部矯正管区少年矯正部

〒461-0011 名古屋市東区白壁1-15-1

名古屋合同庁舎第3号館